

NO.	種名称 (学名)	カテゴリー	解説	生活	声	見分け方	時期																参考文献
3	カッコウ Cuculus canorus	ホトトギス目 ホトトギス科	名前の通りカッコウと大きな声で鳴く、下面に細い横しまのあるホトトギス類。ユーラシア大陸とアフリカで広く繁殖する。日本には北海道から九州までの各地に夏鳥として普通に渡来し、繁殖する。	日本で繁殖するホトトギス類の中でももっとも開けた環境に棲息し、高原、明るい林、川原、低木の生えた草原、農耕地の周辺などで見られる。単独で行動することが多く、主に樹上で毛虫などのガの幼虫や甲虫などの昆虫を食べる。托卵性をもつ。メスは主に産卵途中の巣を選んで1卵をくわえとり、自分の卵を一つ産む。この卵は淡色で斑紋があり、仮親の卵とよく似ている場合が多い。	繁殖期には「カッコー」という声で繰り返して鳴く。また「ハッホー」というハスキーな声で鳴くこともある。時々「カッカッコー」といったり、「ゴーフ」という異様な声も出す。「ポッ、ビビビビ」という声が地鳴きだといわれている。なお、夜間に鳴くこともある。	ホトトギス類の中では体がもっとも大きく、下面の横斑は細く密である。メスには赤色形がある。			・	・	・	・		5	6	7	8	9	10	・	・		山溪カラー名鑑『日本の野鳥』：山と溪谷社